

## 2019年度 一般入学試験（後期日程） 総合文化学部 日本文化学科 出題の意図

### 1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
20	4

### 2. 日本文化学科 アドミッション・ポリシー

日本文化学科は、日本文化及び琉球文化への造詣を深めることを教育上の目的としています。具体的には、言語学・文学を中心とする理論的、かつ実践的な教育を通して、国際社会、情報社会、地域社会の中で自己の役割を深く認識し、生き生きと実践できる人材、そして、豊かな知性、分析力、情報処理能力、表現力、コミュニケーション能力、共生能力を備えた人材を育てていきます。

日本文化学科では、各種入学試験を通して、以下の各専門領域に強い関心を持つ志願者を求めています。

1. 日本語学、日本文学、日本の芸術・芸能
2. 琉球語学、琉球文学、琉球芸能
3. グローバル時代に求められる文化情報の発信技能・多様なコミュニケーションのあり方

特に、AO型入学試験では、以下のような能力、意欲をもった志願者を求めます。

- ① 批評・創作(小説、詩、書、絵画、演劇など)を含む広い意味での表現活動、琉球文化の継承発展に関する活動などの領域で優れた実績を上げ、大学生活の中で、さらに深めようとする人。
- ② 国語科教員、日本語教員、図書館司書(学校司書を含む)、司書教諭といった当学科の専門領域に関わる職業に深い関心を持ち、それを通じて社会貢献を目指す人。
- ③ 国際交流活動、ボランティア活動、課外活動(スポーツ、文化活動) などを通して広い視野を備え、日本文化、琉球文化、多文化間交流などの専門領域を深く学びたいという意欲を持つ人。

### 3. 出題の意図

日本文化学科では、アドミッション・ポリシーに基づき、3つの専門領域への関心の高さを評価するための試験問題を毎年出題しています。今年度は多分化間コミュニケーション・日本語学分野の問題を出題しました。問1は要約問題、問2は意見文問題となっています。問1では適切に情報をインプットし、それをまとめて伝える能力を測っています。また、問2では上記の分野への関心、そして論理的な文章を書く能力を測っています。どちらも、大学に入学し、学んでいく上で必要となる基礎的な知識技能である言語運用能力を問うています。

#### 4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

要約問題については、

- 1) 日本人の外国人が使う日本語への要求の傾向
- 2) 外国人日本語学習者にとって難解な日本語の例と、難解さが保たれる理由
- 3) 日本語が閉じられた言語であることによる影響

の3点が含まれていれば高い評価を与えています。

本文中で多く紹介されている事例を省き、問題提起→展開→まとめという流れをつかむことが重要です。

意見文問題については、多文化間コミュニケーションについての関心・知識、言語への関心・知識を持つ受験生ほどより深い考察ができる問題になっています。

a. 現状の日本語を維持することによるメリットやデメリット、

b. 現状の日本語を積極的に「開かれた日本語」に変えていくことによるメリットやデメリット、

などを、今後、より多くの外国人や外国出身の人が日本で生活するであろうことを踏まえて論じられると評価の高い意見文になります。

また、本学科で専門的に学べる日本語学・琉球語学、または比較対象としての世界各国の言語との関わりに触れることで、より高い評価が得られます。